一般財団法人 日本製薬医学会

日本製薬医学会ニュース No.45
JAPhMed Newsletter No.45 issued in Feb 2025

今年もあっという間に２か月が過ぎようとしています。２月に開催しましたセミナーのご報告と関西部会の活動についてのインタビューです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

広報部会一同

参加者の皆様へ御礼とご案内

Thank you

２月14日（金）臨床開発部会ワーキンググループ１がオンラインセミナーを開催しました（「Real World Data活用の最前線：神経芽腫における米国医薬品承認事例の洞察」）。米国より、講師のThomas Clinch先生にご登壇いただき、外部対照群の活用に至った経緯や臨床研究コンソーシアムやFDAとのダイナミックなコミュニケーション、得られた教訓など、様々な情報を共有いただきました。米国と日本では薬事規制やRWDに求められる品質に違いがあるものの、予後が非常に悪い神経芽腫の小児の患者さんに有効な薬を届けるべく、産官学が協力したストーリーは、まるで1本の映画を見ているようでした。

時差の関係で平日午前の開催となってしまったのですが、それでも参加者からたくさん質問があり、講演後にThomas先生から、日本の皆さんと議論ができて貴重な経験でした、とメッセージをいただきました。

朝早くからご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

主催者一同

部会活動のご紹介　関西部会

多くの会員の皆様が、ご興味のある部会での活動に積極的に参加されておられます。しかし入会して間もない方や、しばらく部会に参加していないという会員の方は、各部会の現在の活動や参加方法をあらためて知りたい、と思っておられるかもしれません。ということで、今月は関西部会の小森先生に活動の近況や関西部会への参加方法をインタビューしてみました！

― 関西部会の活動が最近盛り上がっていますね。

「個性豊かな歴史、町、個人に基づいた関西の特性を活かし、次々と新しいイノベーションが起こり始めています。日本製薬医学会の関西部会としてもその一角となるべく、ユニークなテーマで活動を続けています。」

― 昨年の年次大会は大阪開催ということもあり、関西部会がセッションを１つ企画されていました。 今年度は東京開催ですが、実は関西部会のセッションも計画されていると伺いました。

「今年の関西部会セッションは“創薬スタートアップ”をキーワードに準備を進めています。創薬スタートアップで研究、開発に関わっておられる方、経営マネジメントをご経験されている方を講師にお招きして、スタートアップと大企業が果たす役割、両者の連携や戦略構築のポイントなどをご講演いただきます。」

一昨年秋には関西部会の企画で京都大学附属病院 次世代医療・iPS細胞治療研究センターKi-Connectを見学させていただきました。

― 関西在住でなくても関西部会に参加できますか？

「部会の理念に賛同いただき、志をお持ちの方であれば関西在住に限らず参加可能です。是非ご参加をいただければと思います。」

― 最後に一言お願いします。

「関西部会では会員の皆さんの個性溢れるアイデアを実現できる場所を提供したいと思っています。皆さん一緒に活動しませんか？よろしくお願いします。」

関西部会の活動にご興味お持ちの方はぜひ学会事務局（zymukyoku@japhmed.org）までメールでご連絡を！

発行：日本製薬医学会

一般財団法人日本製薬医学会 事務局
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-15-33
芝浦清水ビル 株式会社 マディア内
E-mail：zymukyoku@japhmed.org
https://japhmed.jp